

馬鈴薯ばれいしょの
(石川啄木いしかわたくぼく)

解説 代用教員時代の同僚の中に、橘智恵子たちばなちえこと言う女性がいた。智恵子は馬鈴薯ばれいしょの花が好きだった。根に充実した力を持ち地に咲き出る純白のこの花は、私にふさわしい。と話していた。

馬鈴薯ばれいしょの
花咲くはなさ
頃ところ
なれり
けり

語釈 ※馬鈴薯Ⅱジャガイモのこと。※たまうⅡ動詞(多く「聞く」「見る」「思ふ」など)の連用形に付いて、補助動詞として用いられる。※らむⅡはつきりしないことについて推量する意を表す。…であるだろう。

君もきみ
この
花をはな
好きす
たまふ
らむ

通釈 馬鈴薯の花が咲く頃になった。君は此の花が好きだったね。